

**2013年1月28日 日本テレビ 定例記者会見**

**《 要旨 》**

**< 発表 >**

**・ ミュシャ展**

日本テレビ開局 60 年特別美術展として、「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」を 3 月 9 日より、六本木の森アートセンターにて開催。これに伴い、イベントをはじめ様々な展開を予定。朝の情報番組「ZIP!」とタッグを組んだ特別番組を 3 月中旬に放送する。なお、本展の音声ガイドには、榎太アナウンサーを起用する。

**・ 読売巨人軍主催の野球中継**

今年の巨人軍主催のプロ野球中継は、基本的には昨年と同様の放送試合数で、地上波は 22 試合、うちナイターは 7 試合、デーゲームは 15 試合。昨年は優勝決定試合を緊急編成したため最終的な実績は 23 試合で、予定していた 22 試合より 1 試合多くなった。今年もこうした緊急対応を念頭に置いている。

BS 日テレでは、55 試合に地上波とのトップ&リレーナイター6 試合を加え、合計 61 試合、これも昨年と同様。

日テレ G+では、巨人主催ゲーム全 72 試合を放送する予定。ジャイアンツには、今年も新しい投手が入り、話題も豊富なので放送を通じて盛り上げていく。

**・ 東北楽天ゴールデンイーグルス主催試合の放映権**

シーエス日本は、「日テレプラス」で、東北楽天ゴールデンイーグルス主催試合の公式戦と交流戦、合計 72 試合、クライマックスシリーズに出場した場合は、同試合も含めて放送する。すべて有料で、スカパー！、全国のケーブルテレビ、ひかり TV での視聴が可能。契約は 2 年間。

同球団が、クライマックスシリーズに出場するチームになることを期待している。

また、日テレプラスは、今年 2 月 15 日より、8 スロットから 14 スロットに広帯域化する。これによって、昨シーズンより高画質となり、野球ファンの方々にさらに美しい映像でご覧いただけるようになる。

## **1. 視聴率動向と編成戦略**

先週の視聴率は、全日はテレビ朝日と同率の1位タイ。プライムとゴールデンでは2位となった。

昨年は、残念ながら2年連続の年間3冠王という目標は達成できず、2冠だった。しかし、コアターゲット（13歳から49歳）では、引き続き高い支持を得つつ、時間帯によってはさらにアップし、スポンサーの支持も得られている。今年は、開局60年の年であり、もう一度3冠王を目指す。

日本テレビは、中高年齢層や若い人たちという絞った視聴者をターゲットにという考えはあまり持っていない。すべての世代でナンバーワンになりたいという非常に欲張った目標を持っている。親子視聴を中心として、家族そろって観ていただけることを基本に置いて、今後も番組をつくっていく。

### **・ 1月期ドラマ**

昨年の年間視聴率で、プライムでのトップを落とした原因の1つに、ドラマが前の年から大きく視聴率を下げたことがある。新年間あるいは新年度のドラマに関しては、視聴者からより多くの支持を得られるドラマをつくっていく。1月期のドラマ「シェアハウスの恋人」「泣くな、はらちゃん」は、台本、演出ともに非常に良い。4月期、その後もさらに強いラインナップを予定しており、ドラマを強化していく方針に変わりはない。

### **・ 開局60年特別コンテンツ**

8月28日の開局記念日がちょうど開局60年の記念日。NHKも含め、テレビ放送が始まって60年という節目の年となる。放送の歴史を作ってきた伝統、メディアを取り巻く状況の劇的な変化も踏まえた上で、新しいテレビの時代を作っていく。

時計の針が59分から60分になる時にはもう一度ゼロになるのと同じように、テレビをゼロから始める。テレビの新しい時代に挑戦する、という意気込みで、様々な番組、事業などをスタートさせる。

最初の特別番組は、1月12日（土）に放送したドラマ「金田一少年の事件簿 香港九龍財宝殺人事件」だった。各国でも同日放送を試みたが、それぞれの地域で、たくさんの方に観ていただき、高い評価を得ている。

また、2月1日（金）、2日（土）、NHKとコラボレーション番組を放送する。NHKのアナウンサーと日本テレビのアナウンサーが相互にそれぞれの番組に出演する。

さらに、「日本一テレビ〜1億3000万人がつながる日〜」、ルーヴル美術館との長期連携協定を記念しての特別番組「ビートたけしの超訳ルーヴル（仮）」などを放送する。

テレビの魅力を改めて視聴者の皆様に知っていただきたい、ファンになっていただきたい、60年の節目をそのきっかけにしていきたいと思う。

## ・生活スタイルとテレビ視聴

テレビのコンテンツをワンセグやモバイルで観たり、タイムシフト視聴する視聴者も増えている。生活のスタイルが変わってきたことで、リアルタイムの視聴率に表れる数字と実際にテレビを観ている人の数字に乖離が出ているというのは、ここ 10 年来の傾向であることは承知している。しかし、「家政婦のミタ」の最終回世帯平均視聴率は 40.0%。テレビのコンテンツは、スクリーンが様々に変わることはあっても、支持されるものを作っていけば視聴者は見てくださる。今のビジネスモデルの中で仕事をしていく以上はリアルタイム視聴で視聴者に見てもらえるような番組を作っていくことを念頭において、やっていきたいと思っている。

## ・東日本大震災から 2 年

報道局を中心に 3 月 11 日の当日、前日も含めて特別番組を放送する予定。大震災からまもなく 2 年が経ち、復興が進んで被災地の方々の生活環境も徐々に変わってきている一方、原発周辺地域で家に帰れない方々もいらっしゃる。様々な変化を踏まえ、しっかりと問題を洗い出した上で、被災した方々の心情を大事に、被災者に寄り添った、そして希望につながるような番組をつくってくれることを期待している。

## 2. 営業状況と放送外収入

### ・営業状況

第 3 四半期の放送収入は、前年比で 100%に届かなかった。しかし、第 1 四半期は前年比 120%と大幅増だったこともあり、4 月から 9 月の放送収入は前年比 100%を超えている。

タイムセールスでは、4 月改編、10 月改編できちんとカロリーを維持。スポットセールスでは、あまり良くない状況から 11 月、12 月と戻し、12 月までで、ほぼ前年まで回復したという状況。1 月も前年比 100%を超えることを期待。

新政権がスタートし、株価が上昇している。見通しが明るいということに期待している。

### ・放送外収入

映画では、「劇場版 HUNTER×HUNTER 緋色の幻影〈ファントム・ルージュ〉」が 1 月半ばからスタートし、16 日間で 79 万人、興収が約 10 億。予想以上のヒットとなっている。「映画 妖怪人間ベム」は、44 日間で興行が約 11 億円。「エヴァンゲリオン新劇場版: Q」は、73 日間で 372 万人の動員。興収が約 51 億円。

イベントでは、2 月 27 日から東急シアターオーブで、ミュージカル「ノートルダム・ド・パリ」が始まる。ミュージカル「ミーツ シンフォニー 2013」がサントリーホールで 2 月 1 日に公開される。

また、昨年 12 月に発足した海外ビジネス推進室の事業で、映画「それいけ! アンパンマ

ン」が、2月7日から韓国の約150館の劇場で初めて公開となる。

### **3. その他**

#### **・ 4K・8K**

受信機がどういふに普及していくのか、視聴者のニーズがどういふところにあるのか、ビジネスとしてきちんと成り立っていくのかといったことを、民放の立場からはきちんと考えなければならない。関心を持って見ていると同時に、新しい技術革新に対応できるよう、技術的な情報や知識、ノウハウなどは研究し、蓄積し、対応していかなければならないと考えている。

技術統括局では、トライアルも進めている。具体的な取り組みとしては、10月8日から東京国立博物館で始まる、開局60年の特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」で、京都の龍安寺のシンボルともいえる石庭を4Kのカメラ高精細画像で撮影したものを公開する予定。

#### **・ 地上波、BS、CS 番組の総合編成**

これまでも、プロ野球中継で、地上波、BS、CSでの3波連動の放送を行っているが、今後一層の強化を図る予定。例えば、日本テレビグループは今年度よりACL、AFCのチャンピオンズリーグの放送権を持っており、CSでの生中継、BS、地上波での録画放送というような3波連動の総合編成を検討している。

(了)